

# ニンニク



ニンニクはタマネギなどと同じように根もとの球根を主に食用とします。花茎の部分が一般に売られている「ニンニクの芽」と呼ばれているものです。ジャンボニンニクはリーキの仲間とされ、厳密にはニンニクと別種です。

**作型** 日当たりの良い保水性のある肥沃土が適し、乾燥と酸性土壌を嫌う。株元からわき芽が出るので芽かきを行い、1本立ちにする。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	品 種 名
秋 植 え						■	■			△	△		各種在来種（各地方の） ホワイト六片

△：植え付け ■：収穫

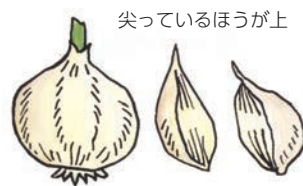
## 畑の準備・定植

<b>土づくり a当たり</b>	
堆肥	300kg
セルカ（有機石灰）	15kg
植え付け15日前頃に土と良く混合	
<b>元肥 a当たり</b>	
醗酵鶏糞	20kg
畝立時施用	

- 畝幅60～80cm
- 株間15cm
- 条間15～20cm（2条）

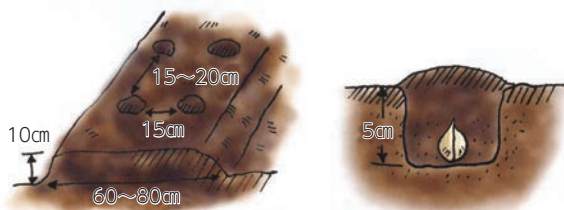
## 種球の準備

- 球根をばらして、傷や病気のないものを使う。



## 定植

- 株間15cm、深さ5cmの植え穴に1片ずつ芽を上にして植え付ける。
- 植え付け後は十分灌水する。



## 芽かき

（草丈10～15cmの頃）

- 元気の良い芽を1芽残し、他の芽はかきとる。

## つぼみ摘み

- 春にとう立ちして、つぼみがついていたら摘み取る。（葉の先端より長く伸びてから切る。）



## 追肥と土寄せ

- 11月と春先（3月下旬頃）芽が伸びはじめる頃に野菜専用肥料5～7kg/aを施用し土寄せする。

## 防除

病害虫名	耕種防除	薬剤防除
べと病	排水を良くする	ダコニール1000 1,000倍 収穫7日前まで 6回以内
さび病	通風を良くする	

## 収穫

- 茎葉が黄色に変色し、枯れてから収穫する。（5月下旬～6月上旬）
- 晴れた日に収穫を行い、根を切って乾かし、茎を切り風通しの良い所で保存する。

# シュンギク

名前の通り、菊の一種です。地中海沿岸原産で、東アジアのみで食用とされています。関西など地方によっては菊菜（きくな）とも呼ばれています。カロテンの含有量はホウレンソウ以上と、緑黄色野菜の中でも抜群です。



**作 型** 冬季はビニールトンネルを利用して品質のよいものを収穫する。古い種は発芽率が悪いので、新しい種子を使い、多めにまいて間引きする。

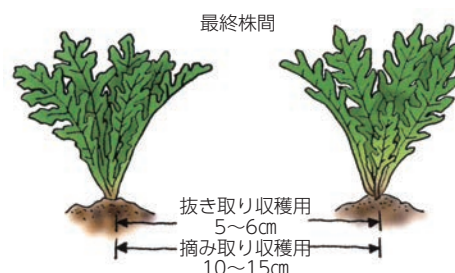
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	品 種 名
秋 ま き											○ ○ ○ ■ ■ ■		株張り型（抜き取り収穫用） 摘み取り型（摘み取り収穫用） 中葉春菊、おびつ春菊

○：種まき ■：収穫

## 畑の準備・定植

<b>土づくり aあたり</b>	
堆 肥	300kg
セルカ（有機石灰）	15kg
植え付け1ヶ月前に土と良く混合	
<b>元 肥 aあたり</b>	
油 粕	10kg
畝立時施用	

- 畝幅100～150cm
- 株張り型：5～9条
- 摘み取り型：4～6条
- 薄く覆土（1cm程度）後、鎮圧する。
- 発芽がそろうまでに時間がかかるので、乾燥しないよう灌水するか、切りわらをかける。

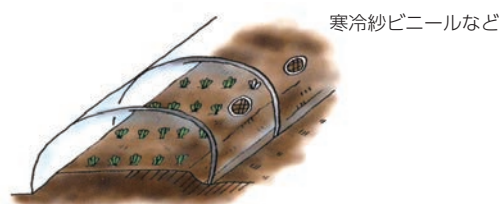


## 間引き・追肥

- 本葉1～2枚時：株間3～4cmに間引く
- 本葉7～8枚時：株間5～6cm間隔に間引き（摘み取り種は10～15cm）、追肥を行う。
- 摘み取り種の第1回収穫後、追肥する。（生育が順調なら追肥の必要がないが、葉色が黄色い時は追肥する）  
（追肥の量：それぞれ野菜専用肥料5kg/a）

## 防寒対策

- 冬期間の栽培は11月下旬を目安にトンネル被覆する。  
（日中高温になりすぎないように換気に注意する。）



## 防 除

病虫害名	耕 種 防 除	薬 剤 防 除
炭 そ 病	排水を良くする 雨よけ栽培をする	アミスター20フロアブル 2,000倍 収穫前日まで 2回以内
アブラムシ	光反射テープをはる 寒冷紗で飛来を防止する	スタークル顆粒水溶剤 3,000倍 収穫前日まで 2回以内

## 収 穫

### 株張り型（抜き取り収穫用）

- 本葉7～8枚、草丈15cm位になったら順次間引き収穫すると品質のよいものが得られる。
- 取り遅れないように注意する。

### 摘み取り型（摘み取り収穫用）

- 摘み取り位置を低くしすぎない方が長く収穫できる。
- 本葉10枚位になったら、下の3～4枚を残して中心の茎を収穫する。

